

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2895000111		
法人名	医療法人社団六心会		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	兵庫県神戸市北区道場町日下部1853番地		
自己評価作成日	平成24年10月29日	評価結果市町村受理日	平成24年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2、ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成24年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.健康面で安心して過ごしていただけるよう各ユニットに看護師(非常勤)を配置し、管理者も資格があるため毎日の健康管理等協力病院との連携も含め医療面を充実させている。</p> <p>2.個別での対応を心がけ、日々のレクリエーションや外出レクも利用者様一人一人にあった対応を行い、利用者様の個性を尊重しています。</p> <p>3.「こころからの笑顔」をモットーに接遇面に力を入れ、良い介護が提供できるよう元気に明るく生き生きと仕事ができる職場環境作りを行いチームワークの強化に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者、職員が一体となり「誠実な介護を通して地域社会に貢献する」との理念実現に向け、「六心の訓」(感謝、素直、互譲、反省、奉仕、謙虚)を実践している。開設から1年が経ち、入居者や職員に落着きの表情や雰囲気を感じられるが、権利擁護制度の理解など整備する基本事項はまだある。同一建物内に小規模多機能型居宅介護があり、管理者が兼務しているため、状態が軽減した場合、円滑に在宅生活に復帰でき、また、同法人が経営する病院が隣接し、緊急時には、医療連携体制があり、強みである。このような事業所は地域にとってユニークな存在となっている。地域との日常的な付き合いはまだ少ないが、今年の夏祭りには多くの住民の参加があり、住民の関心が高いことから、利用者が当たり前の暮らしを続けられるよう、事業所が地域社会とさらに積極的な繋がりを築いていくことが期待されます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

認知症対応型共同生活介護ところ

外部評価機関:CS神戸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の名札の裏側に基本理念と職員行動指針の用紙を入れており、常に意識して仕事をするように指導している。最低月1回の全体会議では基本理念について確認している。新入職員が入った際は初めに基本理念・方針・職員行動指針について説明している。	基本理念の下、基本方針と行動指針がある。理念は新人研修時に管理者が説明し、月1回の全体会議で理解度を確認している。行動指針にある六心の訓(おしえ)は簡潔で覚えやすく、名札の裏に記してあり、一般職員に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りやバザーの案内を地域の方へ配布し来ていただいている。地域の消防訓練に参加。中学生のトライやるウィークの受け入れを行っている。開設して1年のため今後は近隣にできる喫茶店へ行ったり季節行事への参加もしていただく予定。	地域主催の消防訓練に職員2名が参加している。ふれまち協議会や自治会には法人の事務長が出席している。中学生のトライアルウィークに協力した。バザーは駐車場で開催、夏祭りには100名を超す地域の参加者があり盛況であった。	日常的な付き合いを更に深めていくために、自治会活動に参加したり、外出レクリエーションの時にその間フロアを地域に開放するなど工夫して、地域住民との積極的な関わりをもつことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設して1年の為今後行なっていきたく思っている。認知症サポーターのステッカーを施設入口に貼付している。ご家族様からの入居者様以外の認知症高齢者の相談も受け対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の報告を全体会議で職員へ報告し頂いたご意見ご要望を取り入れ改善している。改善した内容は運営推進会議や個別で報告するようにしている。	2ヶ月に1回の会議には、毎回5~8名の家族、地域包括支援センター、自治会長、民生委員が参加している。事業所の管理状況、クラブ活動、ヒヤリハット等の報告をしている。訪問者名簿の置き場所の変更は家族の要望の反映である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や施設部会の時に事業所の状況を伝えるようにしている。	地域包括支援センターの方が運営推進会議のメンバーとして毎回参加している。困難事例など困ったことは必要に応じて相談に行ける良い関係はできている。すべての記録は必ずそのメンバーに送付して事業所を理解していただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で身体拘束の研修を行なっている。行動制限等身体拘束に該当する行為についても説明している。エレベーターは安全の為テンキーにて操作しているが、公衆電話・自動販売機の利用等利用者様の希望時にはその都度職員が付き添い身体拘束をしないことに努めている。	1階の扉は施錠していないが、事業所の在る2、3階へのエレベーターはテンキー方式であり、拘束には気を付けているが、行動制限と考えられるため家族の同意を得ている。1階の公衆電話、自動販売機に行く方は職員が案内している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待防止について行なっている。今後は外部研修にも参加する予定。虐待予防の一つとしてストレスをためない・働きやすい環境づくりに努めている。	管理者は虐待につながる不適切ケアについて職員に説明している。虐待が発見された場合の対応手順を定めている。職員の個別面談は精神的、肉体的ストレスを知るための方法として管理者自ら面談している。懇親会の時にも気配りをしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設前に施設外研修に参加し、今後も施設外研修へ参加する予定。ご家族様からの相談にも応じている。職員全員が理解できるよう今後施設内研修も検討していく予定。	現在、成年後見人制度を利用されている方1名と相談を受けている方が2名おられる。説明する立場の管理者としては施設外研修に参加したが、さらに研修を受けて研鑽したいと考えている。職員並びに家族の理解度がまだ低い。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には説明及び質問に対してお答えしている。改定時には説明文書をお渡しし理解・納得していただいた上で同意書をいただいている。	契約書等の説明は、管理者が入居前に本人や家族に丁寧に行っている。介護保険制度改正時にも特に説明会をもった。看取りについては、まだ行なってはいない。「契約の解除」条項に明確な記載はないが、入居前の説明は行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にお会いしたご家族様には、何かご要望等ご意見がないかお声かけするようにしている。サービス担当者会議でケアプラン以外のご要望をお聞きし反映するようにしている。	毎回複数の家族が運営推進会議に参加しており、議事録の発言も最近は具体的内容で長い文章になっており、会話が深まっていると窺える。また、要望にはその場で答えている。サービス担当者会議は家族も参加頂きプランに反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善委員を各ユニットのリーダーが担当し、リーダー会議も兼ねて行い、職員の意見を取り入れ安全で効率のよい業務へと反映している。ユニット会議及び全体会議でも意見を取り入れている。	リーダー会議と業務改善会議を併せて開催している。また、給食、感染予防、事故防止などの委員会があり、それらを通じて全職員の意見を聞く体制を作っている。アンケート調査等を行っていないが、ご意見箱には職員も投書できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課を行い、随時個人面談をするようにしている。日々の勤務状況を把握し職員一人一人の個性を活かせるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は職員全員を対象とし、施設外研修は、研修内容により受講する必要性が高い職員に参加してもらっている。施設外で受講してきた研修報告を全体会議で行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設部会へ出席し意見交換等を行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までに事前訪問を行いご本人様と面談を行なっている。面談の中でご本人様の思いや不安に思っていることなどをお聞きし、安心していただけるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の電話や見学時等からご家族様の話を傾聴しご家族様の現状や要望を把握し、安心していただけるよう信頼関係が築けるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族の意向を踏まえ、アセスメントの内容も含めて今何が一番必要かを見極め、サービスの利用を検討し支援します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様それぞれが出来ることや得意なことをお手伝いしていただいたり(調理・洗濯・掃除等)、利用者様同士が声をかけあって協力されたりと暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を日々お伝えし、ご本人とご家族の絆を大切にしながら、ご家族と共に支えていく関係を築いている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣のスーパーやホームセンターに買い物に行ったり、入居前に自宅に来られていた知人の方に来てもらったり馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	地元の方には馴染みの人の訪問があるが、入居者の多くは隣接区から来たので訪問客は少ない。近隣のショッピングセンター等に案内し、馴染みの店を創る工夫をしている。入居時に生活履歴等を把握しているが、活用できていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	将棋等趣味が同じ利用者様は違う階のユニットに訪問し一緒に趣味を楽しまれたりしている。利用者同士の関係を職員がしっかり把握し関係性の向上やトラブルの回避を行い、利用者同士が関わり合い支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もご家族様からの相談に応じ支援するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントや面接調査表によりご本人やご家族の意向を把握するよう努めている。入居後はケアプランを基に居室担当の職員が中心となりカンファレンスやユニット会議でその都度検討するよう努めている。	入居前に本人の生活歴、病歴、家族関係などを介護者に調査票に書いてもらい、面接してアセスメントシートを作成し、その人らしい思いや意向を把握している。普段の生活の中での表情や行動からも判断し、カンファレンスで検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面接調査表をご家族に記入していただきご本人の生活史を把握するよう努めている。またご本人・ご家族より話を伺い経過等の把握もするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の中でケアプランの担当を決めておりご利用者様一人一人の状態を把握するよう努めている。状態変化やご要望等何かあればカンファレンスや申し送りノートへの記入、日勤リーダーへの報告、夜勤者への申し送り等職員間で情報を共有するようにしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者・計画作成担当者・居室担当者が日々連携を密にとっており、ご本人様の状態やご家族様のご要望等、主治医の意見を聞き介護計画書を作成している。	月1回のカンファレンス、ユニット会議、毎日のミーティングでケアの統一を図っている。サービス担当者会議には関係者が集まりモニタリングを行っている。今後は家族の参加も考え、本人主体の暮らしを考えていきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを基に日々の状態をケース記録に残し特記事項があれば業務日誌に記入し情報を共有している。カンファレンスを行いモニタリングし介護計画の見直しを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前に小規模多機能型居宅介護の利用を勧めたり、状況に応じて柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催事に利用者様と参加している。自治会のふれあい喫茶に参加させてもらうこともある。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と週1回の歯科往診を行なっている。往診時以外にも早期に適切な医療が受けられるよう受診を行うようにしている。皮膚科等専門的な疾患に関しても受診介助を行う支援をしている。	地元の入居者はかかりつけ医と連携している。この地域に住む子供の勧めで、中央区や須磨区などから引っ越し、この事業所に入居した方が多く、引っ越し前のかかりつけ医との関係継続は難しい。引き継ぎや連絡は行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が勤務の時は看護師に伝え指示を仰いでいる。また毎日管理者(資格あり)に報告及び相談があり体調管理等指導している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し管理者が主となり病院と連携をとっている。入院中及び退院時には、管理者及び計画作成担当者として病院に訪問しサービス担当者会議を開催し退院後の方針を検討するようにしている。	入院後、1か月間は居室を確保している、それ以上になる場合やその他入退院時の諸事項については、病院側地域連携室と話し合い、病状などを確かめて、事業所復帰などの対処の手続きを取っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前には重度化した場合の対応について説明させてもらっている。入居後は状態の変化に応じてご家族と話をしている。	開設から2年目に入ったところで、まだ重度化の問題は出ていないが、今後予想される事態に向けてどこまでお世話できるのか検討している。入院している方もおり、先行きのことも含めて家族とも話し合いながら対応している。	入居者の体調の急変や胃ろうを含め、ターミナルケアの対応などについては、契約時や早い段階で事業所として出来ること、出来ないことを本人や家族・関係機関と話し合い、安心して過ごしていただけることが大切ではないでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時の研修で急変時の対応について行なっている。緊急時マニュアルや症状別の観察・対応についても各ユニットにファイルがあり日々勉強するよう指導している。実際の利用者様の状態に応じて必要性のある緊急時の対応について全体会議で研修している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行なっている。施設内設備の理解や消火器の使い方の実践も行なっている。自治会長及び民生委員の方には協力依頼をしている。	1年目は職員が地域に出かけ、消防訓練を受けたが、施設内は入居者の動揺を考えて職員の訓練だけから始めている。連絡網の作成も考え、次回には地域にも呼びかける予定をしている。	消防訓練は勿論のこと、今後は地震、水害なども想定し地域の応援も必要となります。停電に備えての準備や数日間の非常用食料や備品を用意することが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時には全職員に対して接遇の話をしており、基本方針にもお一人お一人を尊重しますと掲げている。プライバシーには配慮し排泄等の声かけもさりげなく行うようにしている。	理念や職員行動指針を常に振り返り、馴れ合いにならないようご本人一人ひとりの尊厳を大切にしている。利用者への言葉遣いや対応は管理者を初め全員で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の理解力を把握し状態にあった声かけや説明・質問をするように心がけ、利用者様が自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別対応を心がけ利用者様のその日の状態に応じて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回訪問理美容の方に来てもらいご希望される方に利用してもらっている。女性の方は化粧していただいたり髪飾りをつけたりしている。ご自分で出来る方は服装などご本人様に選んでもらっている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には全員で嚥下体操を行いその日のメニューを伝えてから職員も一緒に食事をしている。盛りつけや配膳・下膳もできる利用者様と一緒にいる。いただきますの挨拶も利用者様の役割として行なっているユニットもある。	食事は取り寄せ、温めて盛り付けるが、出来る方は手伝っている。ご飯はフロアで炊き、雰囲気を出している。下膳は大半の方が自発的にしている。誕生月の人に献立の希望を聞き、時々おやつも作っている。好みでアルコールも提供している。	入居者と一緒に献立を考え、調理して食事を楽しむ食事会や、好みのものを食べに出かける非日常的な外食の機会を定期的に企画して、一人ひとりの好みや力を活かす取組みを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・オヤツ量及び水分量を記録し少ない方は必ず申し送りし意識して支援するようにしている。1日1ℓ以上を目標にし尿の状態等個別で1.5ℓ以上等目標を定めて支援している。食事形態やトロミ等身体機能に応じた食事形態を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行う支援をしている。義歯の方は毎日就寝時に義歯洗浄剤につけている。希望者の方には週1回訪問歯科医の往診と週1回歯科衛生士による口腔ケアを受けてもらっている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入することでお一人お一人の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄を行なっている。おむつからリハビリパンツへ、リハビリパンツから布パンツへと一つずつ目標をたて実践している。昼と夜の対応もわけて支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立支援に努めている。おむつの使用は少なく、リハビリパンツから布パンツに変えた例もある。1時間おきの夜間巡回時に排泄時間を把握しトイレ介助をするので、ポータブルトイレは使っていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄チェック表を記入し排便の有無を確認している。便秘傾向の方には毎朝ヨーグルトを食べてもらうなどしている。排便がみられない時は腹部の観察・運動・腹部マッサージ等を行いそれでも改善されない場合は主治医の指示で緩下剤を使用し排便コントロールしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	骨折等身体状況により普通の浴槽での入浴が困難な方には1階の機械浴での入浴に対応している。一応入浴日は予定させていただいているが時間や入浴の有無等は必ずご本人の意志を確認し臨機応変に対応している。毎日シャワー浴を希望される方には対応している。	入居当初は毎日シャワーをされる方もおられたが、最近では一人ひとりの体調や様子をみて声かけをしている。近くに温泉の足湯があり、散歩も兼ねて、外出の楽しみの一つとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や室温は利用者様の希望を確認し対応している。お一人お一人の生活パターンを優先しながら安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットに看護師(非常勤)を配置しており薬管理を行なっている。服薬の準備、与薬はその日の担当を決め責任をもって支援している。服薬のサインもするようにしている。薬の情報は処方時にケース記録へ挟んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸に詳しい利用者様には苗や種選びの時から一緒に買物に行きアドバイスをもらいながら育てたり書道・将棋・音楽療法(コミュニケーションダンス)を楽しみにされておられたりする。ダンボールでの制作や調理や掃除・洗濯等の役割、オヤツレクなど生きがいや喜びのある生活を積極的に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や玄関前の園芸の観察など毎日屋外へ出る支援をしている。個別での外出レクを行なっており利用者様のご希望や趣味などを考慮しお買い物、足湯、飲酒される方にはビール工場見学等外出支援している。	季節に合わせて、皆で、「いちご狩り」や「菊花展」、「紅葉狩り」に出かけている。また、毎日のように個別で、近くの公園まで散歩したり、希望の物を買いに近くの大きなスーパーに行ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていると安心される方や管理の出来る方にはお金を持ってもらっている。公衆電話代を持ちご自分で電話されたり玄関前にある自動販売機のジュースをご自分で買う楽しみを希望される方の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望した場合はその都度職員が公衆電話に付添うようにしている。また個人で携帯電話を持っておられる方もあり自由に電話をしてもらっている。手紙のご希望は今のところないが希望があれば対応していく。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が味わえるようその時期の花を飾ったり季節に応じた作品づくりを利用者様と一緒にを行いディスプレイしている。温度・湿度が表示される壁掛け時計にしている。テレビをつけない時は音楽をかけるようにするなど居心地の良い空間を提供出来るよう工夫している。	玄関前は園芸クラブ自慢の花や野菜が並んでいる。フロアでは習字クラブの作品、皆で作った季節の飾り、行事の写真に楽しさが窺える。掃除や洗濯物干しやたたみも一緒に行うが、ソファでゆったり過ごす人もあり、それぞれの生活が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブル以外にソファを置き、自由に利用者様が過ごせるようにしている。利用者様の過ごし方や利用者同士の関係性等を日々観察し状況に応じてその都度配置を変える対応をしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で今まで使用されておられた物をご自由にお持ち込みくださいとお伝えしており、その人らしい部屋づくりができるよう支援している。仏壇や位牌・家族の写真・本棚(書籍もそのまま)などを持ち込まれ居心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みのダンス、本棚、家族の写真が持ち込まれ、仏壇や位牌のある部屋もある。小型冷蔵庫のある方は家族がヨーグルトや果物など持ってこられる。入口は「すずめ」「つばめ」など小鳥の表札、本人の写真や作品も貼られ、個性がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子・杖歩行等様々な状態での移動や動作を考慮して、安全に生活できるよう配慮している。		